

「侵略」突出しないよう苦心

渡辺利夫 拓殖大総長

これまで独り歩きしてきた「侵略」という言葉を「寧ろ」「戦争」と併記し、「侵略」が突出しないように印象づけている。「謝罪」は、後の世代にこれを残してはならないと明言し、ここで区切りをつけようとした。これらの点に首相の苦心と、強い意向がにじんでいる。他方、村山・小泉談話を全体として引き継ぐとしてきた以上、「痛切な反省と心からのおわび」を表明せざるを得なかったのだから。歴代内閣の立場や日本近代史学が「東京裁判史観」から脱していないのだから、残念だが致し方ない。談話を出すべきだったか否かといえ、私は出すべきではなかったと考える。

首相談話 識者の見方